

次なる世代に継ぐ ふるさと舞鶴



市では、新たな総合計画がスタートしてからの4年7か月、私たちの住むこの地が未来においても魅力あふれる「ふるさと」となるよう、さまざまな土台固めの種をまき、たくさんのお花を咲かせるための元気なまちづくりに取り組んでまいりました。シリーズ市政の「今」第28回は、市民の皆さんが新たな夢に向かい、次世代に素晴らしい「ふるさと舞鶴」を引き継ぐための取り組みをお知らせします。

北陸新幹線の府北部ルート実現に向けて

「東京―大阪間」を日本海側の都市を経由して結ぶ北陸新幹線は、昨年3月に「長野―金沢間」が延伸開業し、首都圏からの交流人口の増大など北陸地方を中心に大きな経済効果を生み出しました。現在、平成35年春の「金沢―敦賀（福井県）間」開業に向けて整備が進められています。北陸新幹線の終着となる「敦賀―大阪間」のルート整備については、現在政府・与党検討委員会などをはじめ、各地でさまざまな議論が活発に行われています。

北陸新幹線の府北部地域を経由するルート延伸は、東海道新幹線と重複しない代替ルート機能確保など日本海側国土軸の形成と重要港湾や海事拠点、工業団地、教育機関、観光資源など多くの国土拠点が集積する府北部地域の発展を図る重要な社会資本整備となります。府北部地域へのルート延伸を誘致し、

京阪神や北陸、首都圏を高速鉄道でネットワーク化することは、本市にとっても、かつてないチャンス到来と考えられるため、府北部地域5市2町が一丸となってその実現に向け取り組んでいます（6ページ関連記事）。

京都舞鶴港へのエネルギー基地整備の誘致に向けた取り組み

東日本大震災では、太平洋側で被災した仙台市ガス局のLNG基地（※1）に代わり、日本海側の新潟県からの広域パイプラインを用いた代替供給により早期の復旧が可能となりました。こういった過去の教訓を受け、我が国の国土強靱化を図るリダンダンシー確保（※2）の観点からも、地震発生時に津波の影響を受けにくい天然の良港である京都舞鶴港にLNG基地の整備や三田市（兵庫県）までを結ぶガスパイプライン整備の必要性が京都府と兵庫県を中心



▲日本海側の国土軸形成によるリダンダンシーの確保



▲アラスカ州（米国）の関係者に京都舞鶴港を説明する多々見市長

に検討されています。今後、南海トラフ巨大地震などの太平洋側大規模災害が発生した場合、関西経済圏のバックアップ機能として本市が果たす役割は大変重要なものになると考えられるため、引き続き京都舞鶴港へのエネルギー基地の整備実現に努めていきます。

また、昨年9月15日に府とアラスカ州（米国）が安定的かつ競争力のある同州の天然ガスに関して情報交換を行う「エネルギー資源に関する協力の覚書」を締結。同月17日にはアラスカ州関係者が、京都舞鶴港を視察しました。加えて国では、平成28年度に日本海側におけるメタンハイドレート（※3）の回収技術に関する調査が予定されています。これら、日本海側における京都舞鶴港を核としたエネルギー拠点の整備と海洋エネルギー資源調査・発掘技術の本格的な開発に関係機関と協力して、さらなる事業推進を図ってまいります。

日本遺産の認定をめざして

本年2月、旧軍港四市が連携して、それぞれの都市が誇る歴史・文化や近代化遺産を全国唯一の歴史ストーリーとしてまとめた「軍港都市 横須賀・呉・佐世保・舞鶴（日本近代化の躍動を体感できるまち）」を「日本遺産」へ認定申請しました。明治時代、海防力を備えるために国家プロジェクトとして独自の都市形成を歩んだ軍港四都市には、今もなお現役で稼働する近代化遺産も多く、躍動した往時の姿を体感でき

京都府北部ルートの必要性

⇒ 地域と地方をつなぎ、全国を一つの経済圏とする「地方創生回廊」の実現

京都府北部地域連携都市圏が国・関西経済圏に果たす6つの大きな役割

- ①国防の拠点
- ②海の安全
- ③災害時のバックアップ機能
- ④エネルギー拠点
- ⑤豊富な産業基盤
- ⑥広域観光の拠点

京都府北部ルートの優位性

- ①人口30万人都市圏の沿線開発効果
- ②山陰新幹線との共用ルートの実現
- ③国土リダンダンシー機能の実現
- ④「国土のグランドデザイン2050」日本海・太平洋側2面活用型国土の実現

将来の山陰新幹線の接続（日本海側国土軸の形成）を視野

るストーリー内容となっています。「日本遺産」とは、我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもので、本年度に創設され、第1回は全国で18か所を認定（今回は2回目）。認定を受けると文化庁からの支援が受けられます。今後、海軍鎮守府とともに発展してきた共通の歴史・文化を持つ四市が、共通ガイドブックの作製など観光振興などで連携し「日本遺産アランド」を活かしたまちづくりを積極的に展開してまいります。

ふるさと納税 戦後復興のふるさとへ

戦後70年・海外引揚70周年という大きな節目の年を迎えた本年度、多くの皆様のお力添えをいただき、引揚記念館所蔵資料のユネスコ世界記憶遺産登録が実現しました。本市では、この世界的にも貴重な引き揚げの史実を未来に引き継いでいくため、ふるさと納税制度による寄付金の使途を「舞鶴引揚記念館」の整備事業に特化して活用し、「引き揚げのまち・舞鶴」としての責務を果たしていきたいと考えています。また、寄付をいただいた方には、地域の特産品に加え、市内の宿泊施設や飲食店など加盟店で利用できる「ふるさと応援商品券」を返礼し、全国から「戦後復興のふるさと舞鶴」を訪れていただく機会を創出する制度に拡充しました。

今後も、引揚者を温かくお迎えした舞鶴市民の「優しさの精神」を次代を担う子ども達に引き継ぎ、全市民が一丸となって引

き揚げの史実の継承とともに平和の尊さを世界へ、そして未来へ向けて発信し続けていきます。



▲昨年9月にリニューアルした引揚記念館

▲日本遺産のストーリーを構成する近代化遺産など

※1 タンカーなどで輸送されてきた液化天然ガスを、都市ガスや火力発電所へ供給するために備蓄、気化する施設。
 ※2 自然災害等発生時に備え、予めライフライン施設などの代替機能を用意すること。
 ※3 メタンを主成分とする化石燃料で、「燃える氷」と表現され、海底の地層の中に存在する。